学校における肥満対応の進め方

R Research　実態把握

・健康診断の結果から
・地域・県・国との比較から

P Plan　計画の策定

教育計画策定時

「健康教育全体計画」や「食育全体計画」に肥満に関する事項を明記する。

＋

年度初め 又は 指導を実施する際

「肥満指導計画」、「個別指導計画」等で、具体的な指導内容を示す。

各計画をもとに共通理解を図る

D Do 計画に基づく指導

各学校の実状に応じて実施

C Check　評価と指導・支援の継続

肥満指導全体の取組の評価

・肥満傾向児出現率の推移
・各実践の成果と課題

対象児童生徒に対する個別の評価

・肥満度の推移
・取組の称賛
・次年度への意識付け

A Action　改善

評価結果に基づく改善

・目標や計画、具体的方策の改善

健康診断・身体計測

肥満度の算出　成長曲線・肥満度曲線の作成

受診のすすめ

学校医の評価に基づく

「栄養状態」について、学校医の総合的な判断
※健康診断票「栄養状態」の項目に指摘事項を記載

ガイドラインに基づく

- 高度肥満　肥満度 50%以上 → 医療機関受診のすすめ（様式例「中等度肥満・高度肥満」参照）
- 中等度肥満　肥満度 30%以上 50%未満 → 医療機関受診のすすめ（様式例「中等度肥満・高度肥満」参照）
- 軽度肥満　肥満度 20%以上 30%未満 → 相談希望調査，かかりつけ医・学校医相談のすすめ（様式例「軽度肥満」参照）

受診に至らない場合 → 再度、受診のすすめ（様式例「再通知 中等度肥満・高度肥満」参照）＋ 相談希望調査

すべての児童生徒を対象に　Population approach

◎健康診断結果のお知らせ
◎成長曲線の活用（自分手帳の活用）
・学級活動における保健指導　・長期休業前の保健指導や講話　・各教科との関連を図った指導
・学校保健委員会での取組　・給食の時間を活用した指導　・PTAと連携した取組　等

肥満傾向のある児童生徒を対象に　Highrisk approach

※各学校の実態に応じて実施する

〈小集団を対象とした指導のすすめ方（例）〉
○○教室等 実施計画策定 → 職員会議等で共通理解を図る → 希望者の把握 → ○○教室等の実施
長期休業前等の時期を捉えた指導

〈個別指導のすすめ方（例）〉
対象児童生徒の把握 →（学校医等から専門的な助言を受ける）→ ○○部会等による個別指導方針の決定 → 職員会議等で共通理解を図る →（日程等の調整）→ 健康相談等の個別指導

適宜、身体計測による発育の評価と指導を継続しましょう。